

福山みらい創造ビジョン（素案）に係る  
パブリックコメントの結果報告

福山市企画財政局企画政策部企画政策課

## 1 意見募集の概要と結果

### (1) 概要

- ア 公表した案  
福山みらい創造ビジョン（素案）
- イ 公表の場所  
福山市のホームページ、市役所本庁舎（企画政策課、市政情報室）、各支所、各分所、各分室 など
- ウ 意見の募集期間  
2026年（令和8年）1月27日（火）～2月25日（水）

### (2) 結果

- ア 提出数  
12通（電子メール9、持参1、ファックス1、郵送1）
- イ 意見の件数  
61件
  - ・意見を計画に反映したもの 9件
  - ・市の考え方を説明するもの 28件
  - ・今後の参考とするもの 24件

※意見については、内容を要約しています。

※1通の意見に複数の内容が記載されている場合、それぞれの意見の内容ごとに要旨を整理しています。

## 2 意見の内容と市の考え方

### (1) 意見を計画に反映したもの (9件)

番号	ページ	該当箇所	意見の要旨	意見に対する市の考え方
1	16	重点プロジェクト1 結婚・出産を望む人への支援	学校単位ではなく全市で統一して包括的性教育を実施していただきたい。	全国の学校で一定の教育水準が保てるよう文部科学省が定めている学習指導要領では「妊娠の経過は取り扱わないものとする」とされており、学校の授業では性交や避妊について学びませんが、SRHR（性と生殖に関する健康と権利）を基本として、包括的性教育の主要な項目である性や健康に関する正しい知識・スキルについて、心身の機能の発達と心の健康、性暴力の防止などを学習しています。 また、パブリックコメント後に受けた少子化対策専門家会議からの提言では、結婚する、子どもを持つといったライフプランを推奨するのではなく、若者や女性が人生の様々な場面で自己決定を行う際に直面する障壁を取り除いていくことを今後の少子化対策の前提とすべきであるとの考えが示されました。 この提言とパブリックコメントでいただいた意見を踏まえ、P.16「結婚・出産を望む人への支援」を「多様な生き方の尊重を前提とした結婚・出産を望む人への支援」に修正し、SRHR（性と生殖に関する健康と権利）に関する文言を追加します。
2	16 19	重点プロジェクト1 結婚・出産を望む人への支援 01 子ども・若者 (1) 出会いと結婚の後押し	出会いの場の創出よりも、包括的性教育や自己決定を支える教育への投資を優先していただきたい。	また、P.19に「(4)SRHR（性と生殖に関する健康と権利）の理解促進」を追加します。 ※包括的性教育とは、身体や生殖のしくみだけではなく、人間関係や性の多様性、ジェンダー平等、幸福など幅広いテーマを含む教育のことをいいます。
3	19	01 子ども・若者 (2) 妊娠・出産への不安の軽減	「産み育てること」を支えると同時に、「産まない・産めない選択」や「途中で困難に直面した場合」も含めた支援の明記を検討していただきたい。	また、P.19に「(4)SRHR（性と生殖に関する健康と権利）の理解促進」を追加します。 ※包括的性教育とは、身体や生殖のしくみだけではなく、人間関係や性の多様性、ジェンダー平等、幸福など幅広いテーマを含む教育のことをいいます。
4	21	01 子ども・若者 (6) 全ての子どもたちが成長を実感できる学校教育の推進 ✓不登校の未然防止と支援の充実	不登校の未然防止について、「校内外のフリースクールなどにおける個に応じた支援」となっており、未然防止という観点で弱いと感じた。学校そのものへの取組をより具体的に示してほしい。	友人関係や体の不調など不登校の背景は多様であり、学校を安心して学べる場所にする、心のSOSを見逃さず支援すること（不登校の未然防止）と不登校児童生徒が学びにアクセスできる環境を整えること（不登校支援の充実）が必要です。 このため、子どもたちの声を丁寧に聞く取組の1つとして「P.21 01 子ども・若者 (6) 全ての子どもたちが成長を実感できる学校教育の推進」の中に「・学習端末を活用したSOSの早期発見」を追加します。
5	21	01 子ども・若者 (6) 全ての子どもたちが成長を実感できる学校教育の推進 ✓不登校の未然防止と支援の充実	不登校の未然防止について、子どもが学校に行きたくなくなる背景には、友人関係、教員との関わり方、授業の在り方、学校文化など様々な要因が存在する。これらの要因を丁寧に分析し、改善に向けた議論を深めていただきたい。	
6	21	01 子ども・若者 (6) 全ての子どもたちが成長を実感できる学校教育の推進 ✓不登校の未然防止と支援の充実	不登校の未然防止と記載されているが不登校は決して悪いことではない。不登校を否定する表記になっているので、変更してほしい。	
7	21	01 子ども・若者 (8) 魅力ある高等教育の提供	「(8) 魅力ある高等教育の提供」が、福山市立大学だけに限定されすぎているのではないか。高等教育の選択肢を更に広げるような取組が必要ではないか。	本ビジョンでは「若者・女性に選ばれる希望の都市づくり」のための取組の1つとして、高等教育の選択肢を広げる取組も必要と考えております。本市では福山市立大学の情報工学部の開設以外にも、デジタル等の人材育成につながる様々な取組を進めているため、「P.21 01 子ども・若者 (8) 魅力ある高等教育の提供」の記載を整理し、「✓進学の選択肢の充実」の下に、「・福山市立大学情報工学部の開設」と「・企業の即戦力となるデジタル人材等の育成」を位置付けます。

番号	ページ	該当箇所	意見の要旨	意見に対する市の考え方
8	25	03 都市基盤 (4) 地域公共交通の充実	「地域公共交通のユニバーサルデザイン (UD) 化を促進する」旨、より具体的には「UD化に適う、車両の導入や乗降場所の整備、接遇スキルの習得・習熟などを支援する」旨もまた明記されてよいのではないか。	障がいの有無や年齢などに関わらず、誰もが暮らしやすいまちをつくるためには、様々な障壁を社会全体で取り除くことが大切です。こうした考えの下、ユニバーサルデザインの導入を進めています。 ユニバーサルデザインについては、地域公共交通以外にも関係するため、「P.29 06 地域社会 (3) 多様性社会の推進」の中に、「 <input checked="" type="checkbox"/> ユニバーサルデザインの推進」を追加します。
9	その他	その他	依存症予防（アルコール・薬物・ギャンブル・ネット・ゲーム）について、依存症は大人だけの問題ではなく、若年層においても深刻化することがある。特に、ネット・ゲーム依存は、不登校や生活リズムの乱れと関連する場合もあり、予防と早期支援が重要である。依存症予防に関することをビジョンに記載してはどうか。	依存症は特定の何かに心を奪われ、「やめたくてもやめられない」状態にあることをいい、本人の心身だけでなく、周囲の人の生活にも影響を及ぼすため、予防と早期支援に取り組んでいく必要があります。 このため、「P.27 04 医療・福祉 (4) セーフティネットの充実 <input checked="" type="checkbox"/> 複雑化・複合化した課題への対応」に、「・アルコールやギャンブル、ゲーム・ネットなど依存症の予防と支援」を追加します。

(2) 市の考え方を説明するもの (28件)

番号	ページ	該当箇所	意見の要旨	意見に対する市の考え方
1	15	(3) めざす姿を実現するための諸施策	人口減少という課題が大前提としてある中で、出生率の向上、移転防止だけでなく、移住者増加（社会増）の要因分析と、その層を増やすという取組も必要ではないか。	転入理由やUターンを妨げる要因を分析しながら、転出抑制だけでなく転入促進にも取り組んでいます。いずれの年代も転入者数の減少が顕著ですが、特に30歳代の転勤や婚姻に伴う転入が減少しています。就職や結婚、子育て等のライフステージにおいて若者に選ばれる都市となるよう、P.17に記載の「学びと仕事の選択肢の充実」「子育て・教育環境の充実」などに取り組み、働く場と暮らす場の両面で魅力を高めてまいります。
2	16	重点プロジェクト1 働き方改革による家族時間・自分時間の確保	「子育てと仕事の両立」については、重点プロジェクト内で触れられていないので、P.16のグリーンな企業プラットフォームの中で、子育てと仕事の両立のしやすい環境を整備することにも触れられるとよりよいのではないか。	グリーンな企業プラットフォームを通じて働き方改革を推進することは、仕事と子育てを両立しやすい環境づくりにつながるものであり、その考えを「働き方改革による家族時間・自分時間の確保」という文言に込めています。
3	16	重点プロジェクト1 結婚・出産を望む人への支援	社会福祉協議会など、特に子育てや女性に関わる行政の会議の男女比はそれぞれの性別を4割以上にしてほしい。会議のメンバーの男女比をきちんと検証し、意識的に女性の比率を4割に近づけるように明文化して、ジェンダーギャップを解消する本気度を示してほしい。	行政施策に男女双方の意見を反映するため、男女比率に配慮する中で、審議会等への女性委員の選任を行い、市民が広く参画できる環境づくりを進めています。 現行の「福山市男女共同参画基本計画（第5次）」においては、2027年度までに、市の審議会等委員に占める女性の割合を30%にすることを目標としています。
4	19	01 こども・若者 (3) ジェンダーギャップの解消とアンコンシャス・バイアスの変革	行政が見本となり、意思決定の場に女性を4割入れる明確な目標を立てるなど、率先してジェンダーギャップ指数の解消に努めてほしい。	次期計画策定にあたっては、これまでの取組と課題を検証し、目標値を改めて検討してまいります。

番号	ページ	該当箇所	意見の要旨	意見に対する市の考え方
5	16	重点プロジェクト1 結婚・出産を望む人への支援	多様性社会推進課が実施しているデートDV予防講座の出前講座は小学生から実施できるように予算をつけてほしい。	文部科学省が作成している「生命（いのち）の安全教育」の指導の手引きでは、中学校を目安に扱う指導内容とされています。このため、中学校で指導することを基本としますが、小学校を含む各学校から出前講座の依頼がありましたら対応してまいります。
6	16	重点プロジェクト1 こどもと子育て家庭への支援	首都圏から福山市へ移住してきたが、福山市西部地域の保育所において、2年連続で待機児童となることが決定した。	本市の待機児童は2023年から0人です。待機児童には該当しないものの、希望する施設に入所できない児童、いわゆる未決定児童が出ていることは課題と考えています。保護者の希望に沿った受け入れができるよう、引き続き丁寧な情報提供や保育人材の確保に取り組んでまいります。
7	17	重点プロジェクト2 一人一人に寄り添った子育て・教育環境の提供	ネウボラセンターを中心にするのはよいが、周辺部の子育て支援について言及されていないので、ネウボラセンターを利用できない方向けの施策を記載してほしい。	ネウボラセンターの設置に伴い、センターが中心となって市全体の子育て支援策を充実してまいります。 なお、P.20に記載の「ネウボラ相談窓口「あのね」」は市内13か所にあるほか、交流館へのキッズスペースの設置など、周辺部における子育て支援の充実も進めています。
8	17	重点プロジェクト2 一人一人に寄り添った子育て・教育環境の提供	多様な学びの場の充実を謳うのであれば、不登校を肯定した上で他の自治体のようにフリースクールへの支援を追加していただきたい。	学校内外のフリースクールの設置や個別のサポート計画の作成・運用、民間フリースクールとの連携など、学校や教室に通うことが難しい児童生徒が、安心して自分らしく過ごせる学びの場の整備や個に応じた支援に取り組んでいます。今後も、外部講師による学習支援など、いただいた意見を参考にすることで体制や支援内容の充実を図っていきます。一方、民間フリースクールは実態も様々であることから、現時点では、民間フリースクール利用者への補助は考えておりません。
9	21	01 こども・若者 (6) 全てのこどもたちが成長を実感できる学校教育の推進 ✓ 不登校の未然防止と支援の充実	「多様な学び」を本気で充実させるのであれば、こうしたフリースクールに通うこどもの学ぶ権利も、行政としてしっかりと保障すべきではないか。	
10	19	01 こども・若者 (1) 出会いと結婚の後押し	婚活イベントが増えれば女性は転出しなくなり、出生率も上がるということか。	人口流出対策として取り組んでいる事業ではありません。個人の価値観を尊重することを前提に、結婚を希望する方のニーズを踏まえた取組を進めるものです。
11	19	01 こども・若者 (1) 出会いと結婚の後押し	行政主導による多様な出会いの場の提供は不要である。	国の「こども大綱」や子育て家庭、こども・若者の様々なニーズを踏まえて策定した「福山市こども計画」には、「結婚を希望する方への支援」が位置付けられており、その方向性に沿って取り組んでいくものです。
12	19	01 こども・若者 (1) 出会いと結婚の後押し	相談体制の構築というのは具体的にどの課が対応するのか。また、相談を受ける職員は結婚を後押しするスキルを持った人なのか。いわゆる婚活相談を行政が請け負うのか。	本ビジョンは各分野における今後の方向性を示すものであり、関連する事業等については、各年度の重点政策等で示してまいります。 なお、相談体制の構築などについては、これまで同様にネウボラ推進部で対応予定であり、専門的な知識や経験等を有する事業者へ委託する予定です。

番号	ページ	該当箇所	意見の要旨	意見に対する市の考え方
13	19	01 こども・若者 (3) ジェンダーギャップの解消とアンコンシャス・バイアスの変革	ジェンダーギャップの解消に向けて家庭、学校、地域、企業と対象者が記載されているが、行政は当事者に入らないか。	ジェンダーギャップの解消に向けては、行政も当事者として取り組む必要があると考えており、「福山市男女共同参画基本計画（第5次）」において、重点目標の一つに「政策等の意思決定過程からの男女共同参画の促進」を定め、各種審議会等への女性委員の選任や市職員の管理職への女性の登用に取り組んでいます。
14	20	01 こども・若者 (5) こどものウェルビーイングの向上 ✓こども・若者の意見の反映と権利の尊重	「こどもの権利の尊重に向けた意識啓発」や「こども・若者への意見聴取」とあるが、これらをどのような手段で実施するのか、具体的な方法を明記していただきたい。	本ビジョンは各分野における今後の方向性を示すものであり、関連する事業等については、各年度の重点政策等で示してまいります。なお、意識啓発については、「こども基本法」や「こどもまんなか社会」に関する理解を市民に浸透させていくため、出前講座の実施など、地域や学校等で学ぶ機会を創出しています。また、意見聴取については、ホームページで募集することに加え、放課後児童クラブ等に直接出向き、対話を通じて意見を聴取しています。
15	20	01 こども・若者 (5) こどものウェルビーイングの向上 ✓こども・若者の意見の反映と権利の尊重	「こども・若者の意見の反映と権利の尊重」について、意識啓発にとどまらず、施策への具体的な反映方法を明示していただきたい。	本ビジョンは各分野における今後の方向性を示すものであり、関連する事業等については、各年度の重点政策等で示してまいります。なお、こどもの意見聴取については既に取組を進めており、実施結果の概要及び施策への反映について市ホームページで公表しています。
16	20	01 こども・若者 (5) こどものウェルビーイングの向上 ✓こども・若者の居場所づくり	若者が無料で使える室内の居場所を早急に整備していただきたい。ネウボラセンターにユースセンターができるという話も聞くが、限られた子しかアクセスできない場所ではなく、徒歩や自転車で行ける範囲に、誰でも利用できる場所をつくっていただきたい。また、「自習スペース」など用途を限定するのではなく、自由に好きなことができる場であってほしい。	ネウボラセンターに開設するユースセンター「ふらっと」は、若者同士が所属する学校の枠を超えて、イベントなどでつながりを持ち、グループ活動を行ったり、一人でも気軽に利用ができ、自主的な学習や活動などができる場所として、新たに設置するものです。また、若者が自由に利用できる場所を充実させていくため、企業や若者支援団体、若者と連携して居場所づくりに取り組みます。加えて、公共施設の多目的スペースなど利用可能な場所を一覧化し、情報提供していきます。
17	21	01 こども・若者 (6) 全てのこどもたちが成長を実感できる学校教育の推進 ✓多様な学びの場の充実	常石とともに学園をきっかけに福山へ移住してきた家族が、引き続き市にとどまり、地域を盛り上げてくれるようにするためにも、イエナプランの精神を大切にした中学校づくりに取り組んでいただきたい。	常石とともに学園では、イエナプラン教育の理念を踏まえ、「自立・共生・自己実現」を学校教育目標とし、一人一人の学びを促す授業により、自ら考え学んでいくこどもが育っています。常石とともに学園の教育実践を教職員研修等で共有し、他の学校の実践にも取り入れられるよう取り組んでいます。
18	21	01 こども・若者 (6) 全てのこどもたちが成長を実感できる学校教育の推進 ✓多様な学びの場の充実	特認校についても広瀬学園のみで、地理的に通学が難しい家庭が多い上、定員も限られているため、希望しても入れない状況が続いている。不登校の中学生の受け皿となるような学校を新たに整備することも必要である。国が推進している「学びの多様化学校」のように、柔軟なカリキュラムを持ち、多様なこどものニーズに応えられる学校を増やしていくことが、福山市の教育の未来にとって重要だと考える。	集団で学ぶことが難しい不登校のこどもたちが自分に合った学びを選択できるよう、校内外フリースクールや広瀬学園小学校・中学校（特認校）など、多様な学びの場を整備しています。「学びの多様化学校」の設置は考えていませんが、多様な教育的ニーズのあるこどもたちのための学びの場の充実に、引き続き取り組んでまいります。

番号	ページ	該当箇所	意見の要旨	意見に対する市の考え方
19	21	01 こども・若者 (6) 全てのこどもたちが成長を実感できる学校教育の推進	こどもたちの成長は、学力調査の正答率より、こどもが学びが楽しいと感じているか、成長を感じているかで計測すべきだと考える。福山には常石とともに学園や、想青学園など、特色ある学びを推進している学校があり、もっとそれを強みとして打ち出し、他校への展開など推進してもよいのではないかと。	「すべてのこどもたちが、自分自身の成長を実感できる学校教育の実現」をめざし、様々な施策に取り組んでいます。「第三次福山市教育振興基本計画」において、学力調査正答率のほか、児童生徒アンケートの「授業で新しいことを知ったり問題を考えたりすることが楽しい」といった学びに向かう力の育成に係る肯定的回答率など、施策の効果的な実施のために多種の指標を設定し、これを基に調査・分析を進め、その後の取組に生かしています。 また、イエナプラン教育校の常石とともに学園や義務教育学校の想青学園などでの特色ある学びについては、教職員研修等で共有し、他の学校の実践に取り入れられるよう取り組んでいます。
20	21	01 こども・若者 (7) 子ども未来館構想の推進	こどもたちの日常の居場所が大きく不足している中で、これほど大きな財源を投入して新しい施設を建設しようとしていることに、疑問を感じている。児童館建設に関しては「公共の床面積を増やさない」という市の方針を理由に、これまで多くの市民の要望が見送られてきた。それにも関わらず、今回のような大規模施設があっさりと建設の方向で進んでいることには、大きな矛盾を感じる。	(仮称) 子ども未来館は、児童館とは異なり最新の科学技術に触れ、知的好奇心を喚起する学びの場として整備するものです。自然や宇宙、技術、数の不思議、暮らしなどについて、こどもたちがわくわくしながら学べる施設としたいと考えています。 なお、児童館が担うべき機能は、あのね相談窓口、地域子育て支援拠点事業、放課後児童クラブ、放課後子ども教室など、既に市内に展開されていると考えています。
21	21	01 こども・若者 (7) 子ども未来館構想の推進	公共施設の増床が困難であるとして児童館整備が進まない一方で、子ども未来館が整備されている点について、整合性に疑問を感じた。	
22	21	01 こども・若者 (7) 子ども未来館構想の推進	(仮称) 子ども未来館について、全てを有料施設とするのではなく、無料で利用できる児童館的機能の併設を検討していただきたい。	
23	21	01 こども・若者 (8) 魅力ある高等教育の提供	「福山市立大学入学者のうち福山市出身者の割合」となっていることの理由がよくわからない。福山市立大学には、県外から優秀な人材が流入してきて、その後福山市内に定着する可能性があるため、指標として、その後の福山への就職数などが加わるとよいのではないかと。	本ビジョンでは、「若者や女性に選ばれる都市づくり」のための取組の1つとして、魅力ある高等教育の提供により学びの選択肢を充実させることとしています。 このため、福山市立大学においては情報工学部開設に取り組むほか、地元高校生を積極的に受け入れる地域枠も設定することとしており、これらの取組がどこまで若者の大学進学時の地元定着に成果があったかを測る指標を設定しています。なお、仕事の選択肢の充実については、ビジョンP. 22に記載の「働き方改革により時間外労働時間が減ったと感じる人の割合」「市内企業の従業員定着率」によって成果を測ることとしています。

番号	ページ	該当箇所	意見の要旨	意見に対する市の考え方
24	24	03 都市基盤 (1) 福山駅周辺のにぎわい再生	駅前に公園を造っても集客にはならないと思う。エフピコRiMを解体して新しくお店を建設した方が人は集まる。天候に左右され、季節に左右される場合は、余裕がある時期、予算がある時にしていただきたい。優先順位は低いと思う。	駅周辺のにぎわい再生の基本的な考え方は、福山城周辺、伏見町周辺、三之丸町周辺、中央公園周辺の4つのエリアを人々が集まる空間に変えることで全体のにぎわい再生につなげていくもので、その核となる事業が駅前広場の再整備です。 現在の駅前広場は交通結節機能が重視され、人が集い、憩える空間が少なく、多くの人が行き交う場所でありながら、単なる通過点にとどまっています。駅周辺のにぎわいを再生するためにも、交通結節機能は確保しつつ、「人々が集まり・出会い・交流が生まれる場」に変えていく必要があります。これにより、都市の顔である駅前に新たな魅力が生まれ、市外からも人が訪れ、更なる人の流れができます。 なお、広場空間には、天候や季節に関わらず、イベント開催や日常的な利用ができるよう、大屋根の設置などを検討しています。
25	25	03 都市基盤 (4) 地域公共交通の充実	公共交通は地域住民の生活を支える重要なライフラインであり、行政が公的資金を使って積極的に支援し、地域の移動手段を確保する責任があると考えます。	交通事業者に対し、バスの運行に伴う赤字額を補填し、バス路線の維持・確保につなげています。 また、地域の移動手段の確保についても、路線バスの廃止代替として、「乗合タクシー」を市内12地区に導入し、更なる事業拡充に取り組んでいます。 国のガイドラインでは、行政の役割として、公共交通の維持・確保に向け、「多様な関係者との合意形成やそれに必要な協議会の設置」「コンパクト・プラス・ネットワークをめざす立地適正化計画と連動したバス路線のネットワーク設定」と示されています。これを踏まえ、本市が旗振り役となり、交通事業者や市民団体、経済界、社会福祉団体等で構成する「バス共創プラットフォーム」を立ち上げ、バス路線の再編に向けて利用促進や利便性の向上に取り組んでいます。
26	39	こども・若者とのまちづくりに関するワークショップ	「こども・若者とのまちづくりに関するワークショップ」について、実施規模が分からない。 ・何人を対象に、何回実施したのか ・参加者はどのように募集したのか といった基本的な情報を透明性の観点からも明確にしていきたい。	福山夢・未来開花プロジェクトの一環として、小学生から大学生までの29人を5つのグループに分けて1回実施しています。 募集については、広報、ホームページ、SNS等に募集記事を掲載するとともに、市内の小中学校、高校へ募集要項を送付して、募集を行いました。大学生は同プロジェクトのファシリテーターを務めており、ワークショップに参加してもらったものです。 参加者の通学状況については把握しておりません。
27	39	こども・若者とのまちづくりに関するワークショップ	P.39に掲載されているワークショップについて、 ・参加人数や年齢層 ・学校に通えていないこども・若者の参加の有無 ・意見がどのように施策へ反映されたのか を示していただくことで、実効性と透明性が高まると考える。	意見は、「P.25 (4) 地域公共交通の充実」や「P.28 (1) 世界バラ会議を契機とした新たなばらのまちづくり」などに反映しています。 今後も、幅広くこども・若者の意見を聴取し、施策へ反映していきます。
28	その他	その他	計画全体を通して、民間団体との具体的な連携に関する記載が少ない点に違和感を覚えた。依存症支援や困難家庭支援など、既に民間が実践を積み重ねている分野については、行政と民間の役割分担や協働の仕組みを明確に示していただきたい。	P.36に記載のとおり、ビジョンの推進に当たっては、「スピード感」「情報発信」「連携」「現場主義」「成果主義」の5つを市政運営の基本に据え、果敢に挑戦していくこととしており、意見をいただいた取組も含め、幅広い分野で多様な主体と連携することで質の高い行政サービスを提供していきます。 なお、個別の施策における多様な主体との連携や役割分担については、部門別の基本計画などでお示ししていきます。

(3) 今後の参考とするもの(24件)

番号	意見の要旨
1	女性の流出率が高いことが課題ということであれば、それがなぜなのか、当事者の声を聞くという詳細な原因分析を計画年度前半に行えると、課題に対して今後より効果的で説得力のある取組ができるのではないかと感じた。
2	若者が福山市に誇りや魅力を感じ、「残りたい」「帰りたい」と思えるような都市づくりができるよう「都市ブランド価値の向上」や「民間投資を促せる都市空間の整備」に継続的に取り組んでいく必要があると感じた。
3	保育施設の設置及び保育士等の人員配置を、より計画的に行っていただきたい。
4	福山市では過疎地域に保育所の空きがあるものの、送迎手段がなく利用が難しいという現状があると感じている。送迎支援を含めた新たな仕組みの検討を要望する。
5	児童福祉に関わる方はきちんと正規で雇用していただきたい。
6	出会いの場を創出した結果の成婚率、またその後の離婚率の検証はされているか。これまでの政策の成果をきちんとアセスメントした上で、プロジェクトに入れてほしい。
7	出会い・結婚に関する相談体制を強化する延長で、結婚後の夫婦カウンセリングまで踏み込めると、ジェンダー間の不平等をなくしていくために効果的だと思う。
8	ネウボラセンターにおいては、こどもの権利、こどもアドボカシー、ジェンダー平等の視点を理解した職員による支援体制が重要と考える。特に管理職に対する専門研修の実施や、民間団体・専門機関との連携を計画上に明示していただきたい。
9	こどもの権利に関する条例の制定を積極的に進めていただきたい。
10	福山市には、小学生以上のこどもが自由に遊べる室内の居場所が本当に不足していると感じている。しっかりとした予算を確保し、こどもたちの居場所づくりに本気で取り組んでいただきたい。
11	全て行政で子育て環境の充実を抱え込まず、良い取組をしているところに対する助成や委託など、官民連携の視点を取り入れるとよりカバーできる領域が広がるのではないかと感じた。
12	不登校の未然防止として、フリースクールによる個に応じた支援は素晴らしいと思った。一方で、難しいことかもしれないが、学校教育において、なぜ不登校の児童生徒が増加する傾向にあるのかを分析した上で、日々の授業や指導方針に反映する対策も必要なのではないかと感じた。
13	学校に「こどもの権利」の視点をしっかりと持ち込み、こどもの尊厳が損なわれることのない学校環境を整えていくことが、不登校の未然防止の基盤になるはず。こどもが安心して自分らしく過ごせる学校づくりに、ぜひ取り組んでいただきたい。
14	不登校の割合が全国平均より高いので、学力調査の結果よりも、不登校児の割合(人数)を少なくすることを目標にした方が、結果として不登校ではない多くの子も通いやすい学校環境が整備できるのではないかと感じた。
15	(仮称)子ども未来館について、P.21に「学校や企業と連携した多様な体験機会の創出」「発見・創造・発表する力を育む場の提供」とあるが、一部の“優秀なこども”だけを選抜して企業とコラボさせるような仕組みにならないことを強く望む。全てのこどもたちが気軽に訪れ、お金をかけずにさまざまな体験ができる施設であるべきだと考える。こどもたちが普段から当たり前のように立ち寄り、安心して過ごせる場所となるよう、ぜひとも丁寧に計画を進めていただきたい。

番号	意見の要旨
16	学校で子どもが使う備品や教材を新しくしてほしい。
17	学校給食について、もっと分かりやすく子どもが喜ぶメニューを中心に考えていただきたい。
18	大阪市北区扇町にある「キッズプラザ大阪」のような「子どもを中心とした体験型博物館兼大人もくつろげるスペース」のような場所がほしい。
19	レスパイトのための日中一時支援事業所をもっと増やしてほしい。
20	短期入所や日中一時支援を利用したくても、親が送迎できないと利用できないため、事業所による送迎などのサービスを検討してほしい。
21	障がい福祉サービスにおける、人材不足や低給与を原因とした不正受給などの法令順守違反を防ぐため、国に対して法制度の改善を伝えていただきたい。
22	放課後等デイサービスや就労継続支援B型事業所など総量規制をされているが、多すぎるサービスの抑制だけではなく、不足するサービスを増やす対策も早急に行ってほしい。
23	一部のこどもの声だけを拾うのではなく、学校に行っていない子どもや、既存の場にアクセスしにくい子どもたちの意見も反映できる仕組みを整えていただきたい。
24	城郭内に新幹線が停車する特異性を磨き上げることで、最高の観光資源になると思う。